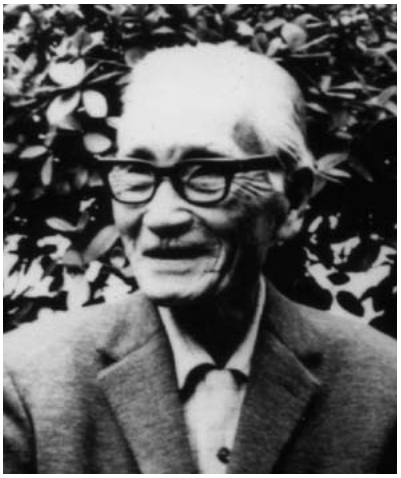
村上　壺天子（1887～1984）



俳人。教育者。越智郡大山村（現、今治市）出身。本名は万寿男。愛媛県師範学校（現、愛媛大学）在学中に、村上霽月から俳句の指導を受けた。師範学校卒業後は教師となり、４年目からは地元小学校の校長を務めて生徒の教育に励むとともに俳句にも打ち込み、大正10（1921）年、松根東洋城主宰の俳誌『渋柿』の同人となって東洋城を師と仰いだ。

昭和13（1938）年、松山市の余土尋常高等小学校（現、松山市立余土小学校）の校長を最後に31年間の教師生活を終え、退職後は俳句や書画に打ち込み、昭和17（1942）年からは、俳誌『渋柿』の選者となった。

略 歴

明治20（1887）年12月１日	越智郡大山村字泊に、重松藤太の次男として生まれる。
明治36（1903）年	愛媛県師範学校に入学。愛媛師範俳句会で村上霽月に指導を受ける。
明治42（1909）年	越智郡大山村余所国（現、今治市）の村上チカエの婿養子となり村上家を継ぐ。
明治43（1910）年	余所国尋常小学校校長となる。
大正８（1919）年	弓削尋常高等小学校（現、上島町立弓削小学校）校長に転勤する。
大正10（1921）年	『渋柿』の同人となり、投稿を始める。
昭和２（1927）年	『壺天子句集』を刊行 松山市の余土尋常高等小学校校長となる。
昭和13（1938）年	余土尋常高等小学校校長を辞任する。
昭和20（1945）年	戦災に遭い、余所国に帰る。
昭和24（1949）年	東洋城を大島に迎え、数日間自炊生活をおこなう。
昭和28（1953）年	第１回個展を今治で開く。再び松山に帰る。
昭和46（1971）年	県立美術館で武者小路実篤、小川千甕と三人で寿老三人展を開く。
昭和59（1984）年12月26日	97歳で永眠

（写真提供：今治市教育委員会）

〈関連図書〉

・『えひめ　人　その風土』　愛媛放送株式会社　1986年
・『愛媛県人名大事典』　愛媛新聞社　1987年
・愛媛新聞社情報出版局出版部『えひめ俳人名鑑』　愛媛新聞社　1992年

〈主な収蔵資料〉…（P225，133）
〈ゆかりのある場所〉…（P312，194）

〈関連施設〉…今治市吉海郷土文化センター

〒794-2103　愛媛県今治市吉海町福田1290　TEL：0897-84-2566